

# 令和4年度事業計画

令和4年4月1日～令和5年3月31日

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

令和4年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。

## I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

### 〈1〉調査・研究活動

#### 1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

\*各研究会の概要は7頁に記載。

#### ①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は巻13・招慶和尚章第15則（全48則）より始め、報慈和尚章（全34則）2則、へと読み進める。第二第四の金曜日開催。参加メンバーは、花園大学の教員や院生、他大学の教員や研究員など。

#### ②「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

班員による読解はほぼ終了しており、西口が整理中。

#### ③「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

コロナ禍により令和3年度も休会となったため、今年度は前々年度を引き継ぎ、巻17・羅山道閑禅師（全19則）、福州香溪從範禅師（全3則）、福州羅源聖寿巖和尚（全1則）、安州白兆山竺乾院志円禅師（全6則）、襄州鷲嶺善本禅師（全2則）、潭州谷山有縁禅師（全2則）、潭州龍山和尚（全3則）、潭州伏龍山和尚（全3則）、京兆白雲善蔵禅師（全3則）、潭州伏龍山和尚二世（全2則）、陝府龍峻山和尚（全4則）、潭州伏龍山和尚三世（全1則）、新羅清院和尚（全1則）、洪州泐潭宝峰神党禅師（全2則）、吉州南源山行修禅師（全2則）、洪州泐潭明禅師（全5則）を読み進め、且つ原稿化を進める。隔月1回開催。参加メンバーは、花園大学の教員や院生、他大学の教員や研究員など。

#### ④俗語言研究会〔担当：衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研

究』を中国四川大学が主（経費負担を含む）となって復刊した。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。今年度中に『俗語言研究』第8号（復刊第3号）を刊行する予定。

## 2. 禅宗経典研究班

禅文献に関わる経典類について独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される経典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

今年度は、法式の基本作法を映像に収め配信することを検討する。

## 3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

令和3年度は、コロナのために、「西田哲学研究会」のみ、参加人数が多い(20数名)こともあり、オンラインにて、年4回の研究会を開催して「一般者の自覚的体系」の読解と討議を重ねた。今年度も継続していきたい。「大蔵会」の「成唯識論」と「西谷研究会」の「大谷講義」の研究会は、直接の会合が望ましいので、コロナの終息を待ちたいが、長引けば、オンラインでの研究会を試みたい。メールでの新たな参加希望者も増えているので、何とか継続していきたいと願っている。

## 4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。

### ① 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道・藤田琢司〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。『一絲語録』令和4年秋の刊行に向けて作業中。仙台伊達家の歴史書である『伊達出自世次考』『伊達正統世次考』の訓注を令和4年秋に終了する。

### ② 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』（卍元師蛮撰述）の訓注作業を行なう。本書は江戸初期までの日本禅僧の伝記の集大成として重要な文献である。しかし難解かつ四十一巻という大部であるため、いままで訓読などが刊行されたことはなかった。

今年度も訓注を行なう。

## 5. マルチメディア研究班

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。

すでに絶版になってしまっている刊行物や、今後刊行する専門書を電子書籍化する方策も調べていく。

## 6. 人材の発掘及び研究発表の場の提供

中国や日本の語録研究や文献調査を担う若手研究者を発掘し養成するために、研究発表の場を提供し支援を行なう。

## 〈2〉 資料収集・資料公開活動

### 1. デジタルアーカイブス

臨済宗・黄檗宗寺院において大切に遺されてきた禅仏教や寺院に関する文化財を、デジタル化して広く国内外に公開（紹介）する事業。

これまで「禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくこと」を目的とし、「国内外にオンライン博物館として、禅の文化財を紹介していく事業」を掲げていたが、今後は、それらのアーカイブを構築することで、多様な学術研究を支えるための基盤作りを行ない、その活用を推進するための事業として展開する。

#### ① デジタルアーカイブス（禅文化財目録整備事業）

臨済宗・黄檗宗寺院のうち、デジタル化について理解の得られた寺院に出向くなどをして調査・撮影を行ない、デジタルコンテンツを作成する。

これらのデータの管理・公開については、日本写真印刷コミュニケーションズの美術館・博物館向け収蔵作品管理システムである Artize などを導入する予定であったが、いくつかの重要な要件を満たすことが困難なため中止とした。それにともない、管理・公開のためのシステムを所内で構築、当法人が所蔵する学術資源のデジタルアーカイブ化を進め、まずは 2022 年 5 月に所蔵品約 30 点を国内外に向けて広く公開する。

#### ② 寺宝調査活動

①のため、花園大学歴史博物館との協同調査を継続する。今年度の調査としては、大本山南禅寺（京都）、大徳寺玉林院（京都）、建仁寺両足院（京都）の継続調査を予定している。

### 2. 資料の収集・整理・公開

#### ① 資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分について、資料管理ソフトを用いての入力と分類整理を行なう。オンライン蔵書検索については、登録情報の不備や欠本等があるため、蔵書整理を行ってから対応する。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

#### ② 禅文化研究所企画墨蹟展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。秋期に「熊本見性寺」展を開催予定。会期中には記念講演会も行なう。また、デジタルアーカイブスの公開に合わせて春期に禅文化研究所所蔵品展を企画している。

#### ③ 黒豆データベース公開

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中

で、随時、データファイルを追加する。

#### ④問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無償で応じる。

### 〈3〉 広報・普及活動

#### 1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、264号～267号を発行する。264号は「禅と観音」、265号は「僊厓（仙厓）」の特集を予定している。

#### 2. 研究成果の刊行

##### ○日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ① 『一絲和尚語録』 (令和4年度刊行)

##### ○マルチメディア研究班の成果

- ① 『2023年禅語こよみ』 (自性寺) 所蔵品 (令和4年9月刊行)  
② 『西洋近世の仏教発見』 村本詔司 (令和4年秋刊行予定)

##### ○その他

- ① 禅文化研究所紀要36号 \*電子版 (令和5年3月刊行予定)

##### ○電子書籍・オンデマンド出版

既刊本のうち即対応可能なものを選択し電子書籍として出版する。新刊の場合は紙媒体と同時に刊行することも検討する。昨年度は新刊の『新 坐禅のすすめ』『禅心の光芒』や『童謡 禅のこころを歌う』を電子書籍化した。

また、絶版刊行物のうち復刊リクエストの高い書籍をオンデマンドとして復刊する。

上記とは別に、1冊ずつ印刷・製本・配送が可能なamazonプリントオンデマンドの利用も開始する。

#### 3. 公開講義等

##### ①「禅思想の諸問題」〔講師 西村恵信（花園大学名誉教授）〕

『臨済録』（岩波文庫版）をテキストに禅の基本思想を平易に講義。一般社会人を対象に毎週火曜日3時から5時まで開催。

##### ②『趙州録』講義〔講師：衣川賢次〕

趙州從諗和尚（778～897）の問答の記録である『趙州録』を読むことを通して、唐代禅の対話精神にふれ、唐代禅思想表現の精華を知るための講義。一般社会人や花園大学院生らが参加。毎週火曜日、1時～2時30分開催。

#### 4. ホームページの運営とコンテンツの充実

##### ①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

本年度もホームページのコンテンツ更新を行なっていく。閲覧や検索がしやすい画面

表示を変更する。また、Facebook や Twitter へも更新情報等シェアしている。

## ②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。

## 5. 公開講演会等

### ①公開講演会

「見性寺院」展公開中に記念講演会を開催する。

### ②教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーとして開講。僧侶・徒弟だけでなく一般も聴講可能。コロナ禍のため2年連続でオンラインでの開講としたが、受講者が少数で開講できたのは2講座にとどまった。今年度は秋に実施すべく新たな企画を検討中。

## 6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店、美術館などの各ルートを通じて普及促進する。紙媒体ではコストがかかり情報の鮮度も落ちるため、メールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及するよう努力する。季刊誌については、花園会館や南禅寺会館の客室に常備いただいている。

コロナ禍が収束すれば、各地で開催される講演会やセミナー等にも出向き刊行物の販売を行なう。

## II. 収益・共益等事業

### 〈1〉ソフト開発・販売等事業

#### 1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を中心に販売を行なう。「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップについては、外注費の確保やサポート体制の目処がつくまで中断する。

#### 2. オーダー型宗務所管理システムの構築

以下の構築済みシステムの機能追加や運用をサポートする。

東福寺派管理システム

佛通寺派管理システム

南禅寺派管理システム

真言宗管理システム

建長寺派管理システム

青蓮院管理システム

曹洞宗宗務所管理システム

永保寺墓地管理システム

天龍寺派管理システム

藏春寺霊園管理システム

妙心寺派布教師会管理システム

妙心寺派 白隠さんの会

現在、臨黄 15 派のうち 6 本山は研究所のシステム（「擔雪Ⅱ」含む）を利用中。

### 3. 宝物管理システムの販売

公益事業の一般寺院什物データベースと関連して、一般寺院が個々に所蔵される宝物什物（軸物・仏像など）をデジタルアーカイブとしてデータベース管理できるソフトウェア「禪の至宝」を引き続き寺院に向けて販売する。デジタルアーカイブ調査を終えた寺院（3ヶ寺）に、構築したデータベース（無償）と共にご購入いただいている。

### 4. 出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやDMなどで案内し頒布する。

## 〈2〉 共益事業

### 1. 寺院その他委託刊行

- |   |              |         |             |
|---|--------------|---------|-------------|
| ① | 『正受老人遠諱記念図録』 | 妙心寺聖澤派  | (令和4年12月)   |
| ② | 『恵林寺所蔵頂相集』   | 恵林寺     | (令和4年秋)     |
| ③ | 『梅天禅師法語』     | 妙心寺派正法寺 | (令和5年刊行準備中) |
| ④ | 『伊達家の歴史』     | 満勝寺(仙台) | (令和5年刊行準備中) |
| ⑤ | 『岫雲抄』        | 岫雲会有志 編 | (令和5年刊行準備中) |

### 2. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて公開中。

### 3. 臨黄合議所事務局

臨済宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行なう。

- ① 臨済宗黄檗宗宗勢調査
- ② 「臨黄会報」の発行（年2回）。
- ③ 臨黄互助会の促進。
- ④ 臨黄教化研究会の実施。
- ⑤ 会議等の事務処理。

### 4. 日中臨黄友好交流協会

コロナ禍により当面の交流事業及び活動は休止。

## 中国禅語録研究班の概要

### ①唐代語録（『祖堂集』）研究会

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 50 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

### ②「神会語録」研究会

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

### ③「景德伝灯録」研究会

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。